

主要産地における令和4年産水稻の生育状況等について 第8報 (令和4年7月15日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和4年7月15日)

道府県	区分	生育状況等	技術・防除・気象等関連公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋)	(参考)
		育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等		
北海道	(生育)	<p>【生育状況(7月1日現在)】</p> <p>(全道) 各作物の生育は、6月前半の低温と日照不足により停滞したものの、後半の気温が高かったことから、平年並に推移している。(北海道農政部 7月7日付)</p> <p>(空知) 生育は平年並である。(空知総合振興局 7月7日付)</p> <p>(石狩) 分けつ後の発生は日照時間が短く遅延している。(石狩振興局 7月7日付)</p> <p>(後志) 遅延はプラスマイナス0。(後志総合振興局 7月7日付)</p> <p>(胆振) 生育は平年並。(胆振総合振興局 7月7日付)</p> <p>(渡島) 茎数は平年よりやや少ないが、生育は平年並に進んでいる。(渡島総合振興局 7月7日付)</p> <p>(檜山) 育は概ね平年並で推移。(檜山振興局 7月7日付)</p> <p>(上川) 生育は平年並に推移している。(上川総合振興局 7月7日付)</p> <p>(留萌) 生育は平年並に進んでいる。(留萌振興局 7月7日付)</p> <p>(オホーツク) 6月上旬までの低温寒害で分けつが遅れたことにより、幼穂形成はやや遅れている。(オホーツク総合振興局 7月7日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】</p> <p>北海道地方の向こう1か月の平均気温は日本海側と太平洋側で高く、オホーツク側で平年並か高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し7月～9月】</p> <p>北海道地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p>	<p>・「ななつぼし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。</p> <p>(農林水産省 3月16日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
青森	(生育)	<p>【7月10日現在】</p> <p>「つがるロマン」 草丈が66.6cmで平年より7.8cm長く、株当たりの茎数は27.8本で3.0本少なく、葉数は10.8葉で0.4葉多かった。</p> <p>「青天の霹靂」 草丈が74.9cmで10.1cm長く、株当たりの茎数は26.8本で1.1本少なく、葉数は9.8葉で0.4葉多かった。</p> <p>「まっしぐら」 草丈が78.3cmで13.9cm長く、株当たりの茎数は31.1本で0.5本少なく、葉数は10.5葉で0.5葉多かった。</p> <p>「はれわたり」 草丈が72.8cm、株当たりの茎数は27.2本、葉数10.3葉であった。</p> <p>(地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所 7月12日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和4年産も同様の傾向になるものと考えられる。</p>
岩手	(生育)	<p>【7月11日現在】</p> <p>・6月前半の低温により初期生育の遅れがみられたが、6月後半以降の気温・日照時間は平年を上回っており、現在の生育は回復基調にある。</p> <p>(岩手県 7月13日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「銀河のしずく」が、耐水性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	(生育)	<p>【7月11日現在】</p> <p>・古川農業試験場の「ひとめぼれ」では、草丈は67.6cm(平年比117%)、1㎡当たりの茎数は633本(平年比106%)、葉数は10.5葉(平年差+0.3葉)となっており、生育は概ね平年並で推移している。(宮城県 7月12日付)</p> <p>(大河原) 生育が早まり、南部平坦地帯の中生品種から概ね幼穂形成期に達している。(宮城県大河原農業改良普及センター 7月12日付)</p> <p>(亘理) 幼穂形成期における「ひとめぼれ」の生育量の目安と比較すると、草丈がやや高いものの、概ね同程度の生育となっている。(宮城県亘理農業改良普及センター 7月13日付)</p> <p>(仙台) 草丈は63.6cmで前年及び平年より長く、茎数は509本/㎡で前年調査より減少していることから最高分けつ期は過ぎたものと見られる。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月12日付)</p> <p>(美里) 5月中旬までに移植した場合は、幼穂形成期に入っている。出穂期は8月4日頃の予測。(宮城県美里農業改良普及センター 7月12日付)</p> <p>(栗原) 生育調査ほの「ひとめぼれ」は、全て幼穂形成期に達した。生育は概ね順調に進んでいる。(宮城県栗原農業改良普及センター 7月12日付)</p> <p>(気仙沼) 管内生育調査ほにおける平年の出穂期8月4日だが、本年度の幼穂形成状況から、生育が早いほ場では7月28日頃に出穂期を迎えたと予想される。ただし今後の天候により生育ステージが予測値から変動することもある。(宮城県気仙沼農業改良普及センター 7月11日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
秋田	(生育)	<p>【7月5日調査】</p> <p>(秋田) 「あきたこまち」草丈が63.4cm(平年比124%)、茎数が400本/㎡(平年比79%)、葉数が10.7葉(平年比+0.5葉)。</p> <p>(平鹿) 「あきたこまち」草丈54.2cm(平年比111%)、茎数386本/㎡(同比75%)、葉数0.9葉(同差+0.0葉)。</p> <p>(由利) 草丈は60.8cmで平年より長く(平年比123%)、㎡あたり茎数は530本で平年よりやや少なく(平年比95%)、葉数は10.4葉で平年並(平年差+0.5葉)。</p> <p>(北秋田) 草丈58.5cm(平年比113%)、茎数399本/㎡(同比66%)、葉数10.4葉(同差+0.2葉)。出穂期の予測(7月16日以降、平年値で計算)では、5月15日移植は7月29日(平年8月4日)、5月25日移植は8月4日(同8月7日)となっている。</p> <p>(秋田県農林水産部 7月8日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	(生育)	<p>(西置賜)</p> <p>・7月8日現在の生育は、草丈は平年並～長く、茎数は「はえぬき」「雪若丸」で少ない～やや少なく、「つや姫」で多く、葉数はやや多い～多く、葉色は平年並～濃い状況。</p> <p>・農業総合研究センターの幼穂の顕鏡調査では、出穂期は「はえぬき」「雪若丸」で平年より2日程度、「つや姫」で3日程度早い予想。(置賜農業技術普及課 7月12日付)</p> <p>(西置賜)</p> <p>・7月8日現在の生育診断の生育は、草丈は平年より長く、茎数は品種による差が大きく、葉数は平年並～やや多く、葉色は並～やや濃い状況。</p> <p>・気温が高い状況が続いており、今後も気温が高く推移する予想となっていることから、出穂期は平年より早まる予想。(西置賜農業技術普及課 7月11日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天のつぶ」が増加していたが、銘柄米への転換が増加していることから比率はやや低下している。</p>
福島	(生育)	<p>【7月5日現在】(農業総合センターの作柄解析試験)</p> <p>・「コシヒカリ」は、草丈が本部(郡山市)、浜地域研究所(相馬市)で平年より長く、会津地域研究所(会津坂下町)でやや短くなっている。茎数は本部、会津地域研究所で少なく、浜地域研究所は平年並。葉色はすべての調査場所で平年より濃い傾向。主産葉数は、全ての調査場所で平年並。</p> <p>(福島県 7月11日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】</p> <p>東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天のつぶ」が増加していたが、銘柄米への転換が増加していることから比率はやや低下している。</p>
茨城	(生育)	<p>【7月11日現在、水戸市】 幼穂長からの出穂期予測に基づく生育遅速(5月2日移植) ・「あきたこまち」で2日遅く、「ふくまるSL」2日遅く、「コシヒカリ」で4日遅い。(5月10日移植) ・「コシヒカリ」平年並。</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月14日付)</p> <p>【7月6日現在、龍ヶ崎市の】 幼穂長からの出穂予測(4月27日移植) ・「あきたこまち」で1日遅く、「コシヒカリ」で1日遅く、「ふくまるSL」2日遅い。(5月8日移植) ・「コシヒカリ」2日早い。</p> <p>(茨城県農業総合センター水田利用研究室 7月8日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で近年、多様な多収米への作付け移行が進んでいる。</p>

<p>栃 木</p> <p>(生育)</p>	<p>【7月6・8日調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早稲コシヒカリ」莖数が少なく、葉色が淡く、生育量（生育診断値）は平年を下回っている。草丈が平年よりやや高い。 ・コシヒカリ（5月4日移植、宇都宮市）の出穂期は7月26日頃の予測（平年より4日程度早い） <p>（栃木県農政経営技術課 7月12日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。
<p>千 葉</p> <p>(生育)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月20日に移植した「コシヒカリ」は6月25日頃（平年より3日遅い）、「粒すけ」は6月24日頃（平年より3日遅い）に幼穂形成期を迎えた。 ・5月1日に移植した「コシヒカリ」は6月29日頃（平年より1日遅い）から幼穂形成期となる。莖数については回復傾向にあるが、引き続き県南地域に向かうほど平年よりやや少なくなっている。 <p>（千葉県 7月1日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。令和2年産から新品种「粒すけ」の本格栽培が開始
<p>新 潟</p> <p>(生育)</p>	<p>【7月11日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新之助」出穂期は県全体の平均で平年より2日早い8月8日頃と予測。（新潟県 7月12日付） <p>【農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月11日現在）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」指標値に比べ、草丈は「長い」、莖数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「淡い」状況。 ・「新之助」指標値に比べ、草丈は「長い」、莖数及び葉数の進みは「並」、葉色は「淡い」状況。 ・「こしいぶき」指標値に比べ、草丈は「並」、莖数は「少ない」、葉数の進みは「並」、葉色は「淡い」状況。 <p>（新潟県 7月12日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>イネゾウムシ</i>の発生が「多い」と予想される。 （農林水産省 6月8日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品种「新之助」（晩生型）の作付拡大を推奨している。
<p>富 山</p> <p>(生育)</p>	<p>【生育状況（7月12日）】</p> <p>「コシヒカリ」：平年に比べ、草丈はやや長く、莖数、葉色は並、葉齢はやや進んでいる。幼穂形成期は、平年に比べ3日早い7月8日であった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ3日早い7月30日頃と見込まれる。</p> <p>「てんたくく」：5月1日移植の「てんたくく」の出穂期は、7月14日頃と見込まれる。</p> <p>「てんこもり」：平年に比べ、草丈、莖数、葉色は並、葉齢はやや進んでいる。幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月11日頃と見込まれる。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ1日早い8月3日頃と見込まれる。</p> <p>「富富富」：近年に比べ、草丈はやや長く、莖数はやや少なく、葉色は並、葉齢はやや進んでいる。幼穂形成期は、近年に比べ3日早い7月10日頃と見込まれる。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年に比べ3日早い8月1日頃と見込まれる。</p> <p>（富山県 7月12日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>イネゾウムシ</i>の発生が「多い」と予想される。 （農林水産省 7月6日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温多湿でも品質が安定している「てんこもり」及び「てんたくく」県のトップブランドに位置づけている「富富富」が増加傾向にある。
<p>石 川</p> <p>(生育)</p>	<p>【7月8日調査】【品種別地域別出穂期予想】</p> <p>「ゆめみづほ」 加賀：7月14日～7月17日、平年に比べ3～4日程度早い。能登：7月19日頃 平年に比べ4日程度早い。</p> <p>「能登ひかり」 能登：7月19日頃、近年に比べ4日程度早い。</p> <p>「コシヒカリ」 加賀：7月25日～7月28日、平年に比べ3～4日程度早い。能登：7月27日～7月29日、平年に比べ4～5日程度早い。</p> <p>（石川県農林総合研究センター 7月14日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>イネゾウムシ</i>の発生が「多い」と予想される。 （農林水産省 7月6日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル品種の「ひやくまん殺」が増加傾向にある。
<p>福 井</p> <p>(生育)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「移植ハナエチゼン」の出穂期は、早い地域では7月10日頃、県全体では平年より3日程度早く、7月13日頃となった。 ・「コシヒカリ」や「あきさかり」の幼穂形成期も2～3日早くなっている。 <p>（福井県 7月15日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁新潟地方気象台）</p> <p>向こう1か月、<i>イネゾウムシ</i>の発生が「多い」と予想される。 （農林水産省 7月6日付）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種「風さやか」の導入を推進している。
<p>長 野</p> <p>(生育)</p>	<p>（松 本）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月下旬以降の著しい高温の影響で、生育はかなり進んでいる。 ・7月9日現在の水稻生育予測では、「コシヒカリ」で6日早と推定、「あきたこまち」は平年より3日早と推定しているが、高温が続いているため、実際の生育はさらに早まっていると思われる。 ・定点園場の「あきたこまち」の幼穂形成期は7月3日（平年より3日早）、「コシヒカリ」の幼穂形成期は7月10日（平年より6日早）。 ・今後も高温が予想されているため、生育はさらに早まることが予想される。 <p>（松本農業農村支援センター 7月12日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種「風さやか」の導入を推進している。
<p>滋 賀</p> <p>(生育)</p>	<p>【農業技術振興センター 水稻作況調査（6月30日時点）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作況調査（5月10日移植）では、「みずかがみ」、「コシヒカリ」とも、莖数は平年より少ないが、葉色は濃く推移している。 ・幼穂形成期は、「みずかがみ」は6月28日、「コシヒカリ」は7月2日と、高品種とも平年より1日早く、「みずかがみ」では7月22日頃に出穂期を迎える見込み。 ・県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育に差は見られるものの、概ね平年並に幼穂形成期を迎えている。 <p>（滋賀県農業技術振興センター 7月11日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並少ない見込み。 （気象庁大阪管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 （気象庁大阪管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。

兵 庫	<p>(7月1日現在)</p> <p>(県北) 「コシヒカリ」の草丈は平年より長く、莖数はかなり多く、葉齢の進展は平年並みである。遅植えでは、草丈は平年よりやや長く、莖数はかなり多く、葉齢の進展はやや早い。</p> <p>(生育) (県北以外) 葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。</p> <p>(兵庫県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。</p>
岡 山	<p>・極早生種の生育は概ね平年並である。</p> <p>(岡山県病害虫防除所 6月29日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月6日付)</p>	<p>・「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。</p>
広 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月6日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>
愛 媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。</p>
高 知	<p>【早期稲(穂孕期～出穂期)生育:並】 ・草丈は低いものの、好天に恵まれたことから分けつ数が多く生育は順調である。 ・また、出穂時期が平年よりやや早く、極早生品種で5日程度、「コシヒカリ」で3日程度早くなっている</p> <p>【普通期稲(分けつ期)生育:並】 ・降水量が少なく、一部の圃場で田植えが遅れた。水不足のため田植えをあきらめた圃場もある。 ・移植後の生育は概ね順調であるが、標高の高い圃場では朝晩の冷え込みにより生育がやや遅れ気味である</p> <p>(高知県病害虫防除所6月月報 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>
福 岡	<p>【6月15日現在】</p> <p>【早期水稲】(夢つくし、コシヒカリ) ・田植え後、天候は安定しており初期生育は良好で、草丈は平年並み、莖数はやや多い。 ・スクミリンゴガイによる食害は一部で認められるが少ない。ウンカ類の発生は圃場では確認していない。</p> <p>(生育) 【普通期水稲】(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど) ・育苗期の天候は概ね安定しており、生育は良好で病害の発生は少ない。 ・一部地域では、5月中旬～6月上旬植えで、水不足の影響により田植えが遅れていたが、6月5～6日の降雨により概ね解消している。</p> <p>(福岡県農林業総合試験場 6月15日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月6日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「元気つくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後新品種「夢つくし」の拡大を推奨している。</p>
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月6日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの輝き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。</p>
宮 崎	<p>【作物の生育状況(6月中旬)】</p> <p>(生育) ・早期水稲は穂ばらみ期、普通期水稲は移植前後(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月22日)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月6日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みさ358」への作付誘導が進められている。</p>
鹿 児 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月16日～8月15日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、いもち病の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 7月6日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：令和4年7月15日12時時点での取り纏め。
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道農政部 7月7日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月7日)、
農作物生育状況調査の概要7月1日現在(北海道留萌振興局 7月7日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月7日)、
水稲作況調査報告(7月10日現在の生育状況)((地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 7月12日)、
令和4年産岩手県内の水稲の生育概況(7月11日現在 速報)(岩手県農業技術普及課 7月13日)、
令和4年産水稲の生育状況について(7月11日現在)(宮城県 7月12日)、
仙台稲作情報2022(第5号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月12日)、
仙南稲作情報(第4号)(宮城県大田原農業改良普及センター 7月12日)、
令和4年産美里地区の稲作情報第6号(宮城県美里農業改良普及センター 7月12日)、
栗原の稲作通信令和4年第5号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月12日)、
令和4年産気仙沼・南三陸稲作情報第7号(宮城県気仙沼農業改良普及センター 7月11日)、
令和4年稲作情報第5号(宮城県亶理農業改良普及センター 7月13日)、
こまちチャンネル<http://www.e-komachi.jp/>(7月15日閲覧)、
東南おきたま米づくり情報No.9(置賜農業技術普及課 7月12日)、
西おきたま米づくり情報No.9(西置賜農業技術普及課 7月11日)、
主要な農作物の生育情報令和4年度第4号(福島県農林水産部 7月11日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月14日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月8日)、
令和4(2022)年度水稲生育診断予測事業速報No.5(栃木県 7月12日)、
水稲の生育と当面の対策第4報(千葉県農林水産部 7月1日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第3号)(新潟県 7月12日)、
TACS情報第7号(富山県 7月12日)、
令和4年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-7号)(石川県農林総合研究センター 7月14日)、
稲作情報No.11(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月15日)、
令和4年作物技術普及情報第12号(松本農業農村支援センター 7月12日)、
令和4年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月11日)、
令和4年度兵庫農農業気象技術情報No.2(7月情報)(兵庫県 7月5日)、
令和4年度病害虫発生予報第4号(岡山県 6月29日)、
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 7月5日)、
福岡県の主な農産物の生産状況(専技情報より抜粋)(福岡県農林業総合試験場 6月15日現在)、
令和4年度病害虫発生予報第2号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月22日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月14日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月14日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月14日気象庁)、
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月14日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月14日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月14日広島地方気象台)
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月14日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月14日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月14日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(6月21日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(6月21日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(6月21日気象庁)、
北陸地方こう3か月の天候の見通し(6月21日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(6月21日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(6月21日広島地方気象台)
四国地方こう3か月の天候の見通し(6月21日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(6月21日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(6月21日鹿児島地方気象台)、

令和4年度 病害虫発生予報第4号(農林水産省 7月6日)、
令和4年産水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月16日)